

府 督 總 灣 臺
部 報 情 時 臨

報 部

日一月二十年三十和昭

附	華	海	地	東亞
錄				農林
事	僑	外	方	臺灣
變				農林業の地位
日	(臨時情報部)	(臨時情報部)	(州・廳臨時情報部)	(殖産局農務課)
誌	情 報	情 報	情 報	

號 五 十 四 第

昭和十三年九月二十日第三號
昭和十三年十二月二日發行
昭和十三年十一月十一日、廿一日發行



てしか動を靈の先祖



蔣の最後の據点漢口、抗日の温床地廣東は陥落した。

支那事變中にも拘はらず我が國の保護下に安居樂業を感謝する在北福州、興化出身の華僑は故國福州の安危を念ひて座視する能はず、茲に祖先の祠三山善社に集り祖先の靈を動かして一口も早く蔣政權より離脱し眞の東洋平和のための新政權樹立を祈願した。

今や東亞の新秩序建設の新段階に入り曾つて世界文化史上に幾度か炬火を點じた支那民族もその偉大性を發揮しこの大業を分擔すべく躍起する秋である。

東亞農林協議會と臺灣農林業の他位

殖産局農務課

第一概説

一、本年八月十五日より八月二十日に至る六日間に亘り農林大臣官邸に於て農林協議會——一般には東亞農林協議會と呼ばれる會議が開催せられました。此の會議には内地側よりは主催者たる農林省の外企劃院及外務、陸軍、海軍、大藏、商工、拓務の諸省外地側よりは朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳、南洋廳、關東廳更に新に東亞經濟ブロックの構成に参加した友邦滿洲國及北支蒙疆及中支諸政權の代表者が參會致しました。

二、農林協議會開催の趣旨

當初本協議會は「東亞農林協議會」なる名稱の下に開催せらるゝ豫定でありましたが主催者が農林省なる關係上其の權限に關して疑義ありとせられ實體の審議に入るに先立つて手續に付て無用の紛議が起るの惧があつた爲に名稱も單に農林協議會と稱せらるゝ事となり、農林大臣も開會の挨拶中に時局に鑑み農林省が其の政策に對し全面的に再檢討を加へ新政策を樹立

せんとするに當り外地及圓ブロック内に在る友邦各地方の現情及指導計畫を聞きて參考に資せんとする趣旨なる事を述べられたのであります。

然し乍ら新東洋建設の爲に内外地を問はず日滿支を擧げて協力一致を要する現下の時局に當りては東亞ブロック内に於ける各地方の農林生産力の擴充を圖ると共に其の間に調和を得しむる如く指導することが急務中の急務なるは言に俟たざる所でありまして此の事實は參會者各員の深く認識する所でありましたので協議會は當初より東亞農林會議として進行し全體としての東亞農林業の發展、調和に關して審議が行はれ主催者の權限の如きは重要に非ずとして閑却せられたかの觀を呈したのであります。

三、協議會日程の概略

第一日の八月十五日は總會で農林大臣の挨拶に初つたのであります。農林大臣は其の挨拶中に於て現下時局の重大性に鑑み内外地、友邦は緊密なる聯絡の下に相協力して重要資源の確保並に生産力の擴充に邁進するの要あることを力説せられました。次で事務次官より農林省の提案に係る議案十一項目(後掲)に付て説明を爲し内地農林政策に關し農林省が抱懐する計畫、目標を稍詳細に解説する所がありました。次に陸軍省、大藏省及臺灣總督府より各々其の提案事項(後掲)の説明を行ひ其の後一般的意見の交換を行ひ第一日の日程を終りました。此の際臺灣總督府より臺灣は南支に對して地理的及歴史的に特殊の因縁及利害を有するに因り第二日以後に於て開催せらるべき委員會に於て夫々所見を述べ本協議會の了解を得度き旨

を申述へ議長(農林大臣)の承認を得たのであります。

第二日以後第五日に到る四日間は四部に分ちたる小委員会が開催せられました。小委員に於ては地方別に各議題に對する所見と其の企圖する産業計畫を詳述して關聯を有する他地方の批判を請ひ屢々火花を散す様な激論を戦はせたのであります。が何れも東亞建設の大理想に燃えた熱情の餘りに出たもので結局大局的見地よりする互譲に依つて概ね諒解點に到達したのであります。各委員会を通じて滿洲國、北支、蒙疆、中支等の各地方が政權の誕生日尙淺きに拘らず能く東洋プロック内に於て其の占むべき地位を確認し日滿支一體の大政策に向つて邁進せられつゝあるを看取する事を得たのは甚だ愉快でありました。

最終日即ち八月二十日は總會で各部の委員長より夫々の委員会に於て述べられた各地方の計畫、其の根本に横はる思想、關聯地方間に行はれたる討議の概要に關する報告があり次で若干の一般的意見、主催者に對する感謝の開陳があつて此の意義深き東亞農林協議會の幕は閉ぢられたのであります。

四、農林協議會附議事項

農林省提出議案

- (1) 米穀に關する事項
- (2) 小麥に關する事項
- (3) 繭絲に關する事項

(4) 茶に關する事項

(5) 主要工業原料農林産物の生産配給に關する事項

(6) 林業に關する事項

(7) 水産業に關する事項

(8) 家畜の改良増殖及家畜衛生に關する事項

(9) 馬に關する事項

(10) 肥料に關する事項

(11) 玉蜀黍其他の飼料に關する事項

其の他の提案事項

(1) 農事關係人的資源相互融通に關する件 (陸軍省)

(2) 酒精原料増産に關する件 (大藏省)

(3) 事變後に於ける農林業者保護に關する件 (臺灣總督府)

第二 農林協議會を指導したる若干の思想的基調

本協議會に於ては前記の議題及之と關聯ある事項に關して熱心なる討議が重ねられ概ね所期の諒解に到達したのであります。が右討議の際に伺はれた各地方各委員に共通せる若干の思想こそは新しき東亞プロック建設の基調と爲るべきものと考へられますので之を要約して御紹介申

上げたいと思ひます。

一、農林協議會が東亞ブロック内に於ける農林生産力の擴充及諸地方間に於ける調和方策に關して考究することを趣旨として進められたことは前に述べた通りであります。斯の如き情態の下に協議が行はれた結果として一地方の特殊事情を強調するの餘り東亞の全體的發展を無視する如き所説は自制せられ所謂全體主義的思想が會議を支配して居つたと認められます。即ち各委員共充分所見を披瀝するけれども餘程の事情無き限り大局的見地よりする互讓妥協を行ふの用意を持つて居つたもの、如くで此の種の會議としては蓋し稀有の事であつたと信じます。

二、東亞經濟ブロックの建設

東洋平和の確立の爲には將來起ることあるべき各種の事態を考慮に入れ國民生活上及軍需上の重要資財の自給自足を圖ることの肝要なることは自明の理であります。現に長期戦下に在る帝國及友邦としては急速に重要資源の開発に努め極力生産力擴充を圖らねばなりません。従つて各地方は概ね五箇年以内の短期計畫に依り急速に増産を實施することを述合ひ或種の物資(米)に付ては若干の供給過剰を見るも寧ろ悦ぶべきことなりとする見解が認められたのであります。即ち急速且大規模計畫は此の協議會の一の基調でありました。

三、而して右増産計畫に在りては適地適業の原則に従ふべきは勿論で各地方より開陳せられた計畫は何れも適地適業の原則の上に考慮せられたものであります。此の見地よりして熱帯、

亞熱帯に位し帝國及友邦の領土中特殊の生産條件と異常なる生産力を具有する我が臺灣は新しき東洋の建設上に於て重要な役割を有することが明らかにせられたのであります。此の點に關しては更に後に述べます。

四、生産力の擴充が適地適業の原則に基くべきは當然であります。東亞ブロックと言ふ大なる有機體の完成の爲には適地が適業の一部を自制するの必要なる場合が生じます。例へばある地方に於て或る特定の産業のみが主産業たり得る事情であるのに反し、他の地方に於ては其の産業も有利であるが他の産業も選び得る場合、而してブロック全體を通じて生産過剰の場合前者の維持の爲に後者が一部を自制すべきは當然でありませう。特に設例の前者が内地農村なる場合に於ては後者は進んで努力を拂ふの用意が肝要であります。蓋し内地農村は實に新しき東洋建設の指導力たる日本精神の源泉であり亦東洋平和確立上必須なる兵力資源の最大給源であるからであります。内地農村と謂ふ偉大なる原動力に缺陷があつては新しき東洋の確立は想像することが出来ません。内地農村を枯すな。此の思想は適地適業主義と相並んで終始東亞農林協議會の進行を支配したのであります。

五、新しき東洋建設の爲には友邦人民の民心を把握し彼等をして悦んで大業に協力せしむることが肝要で之が爲には先づ第一に住民の大多數を占むる農民の生活の安定を圖ることが急務であります。而して民心把握農民生活の安定の爲には再び適地適業の原則に歸つて産業の指導奨励を行ふことが肝要で内地農業は之に對して協力を惜まざることを明かにしたのであり

ます。類似の事例は内外地農業の上にも之を見受けれます。例へば最近に至る迄農林省は臺灣に於ける小麥の栽培奨励に異議を有して居つたのでありますが臺灣に於ける農業生産力の擴充、重要産業調整上必要なる事を認めて快く從來の主張の一部を改めたのであります。

六、外地及友邦農林業の發達は一に内地農業の指導援助に俟つと言ふも過言でありませぬ。此等の地方に於ける新興農業にして内地より種苗、種畜、肥料等の供給を前提とせざるは稀であります。此の事實は臺灣の過去の經驗、將來の計劃に鑑みれば多く説明を要しません。然し乍ら外地及友邦の農業が内地農業に對して最も切に求むる所のは其の人的要素であります。農業の人的要素の問題は本協議會に於て連日に亘り各地方の代表より繰返し々々希望の開陳が行はれたのでありますが滿洲國の希望は各地方の言はんとする所を盡して居りますので假に之を要約引用したいと思ひます。曰く「滿洲國に於ける農産資源の開發、國民生活の安定、従つて國礎の確立は日本農業者の援助に懸つて居ります。日本農業者の一は指導者であります。

日本農業者の指導は農業技術に就くと等しく農業組織——農業團體の設立運用——に關しても緊要であります。

又農業移民は農業上の指導者と相並んで必要であります。

滿洲に於ける日本人農民は其の傑れたる耕作技術を以て範を滿洲農民に示して呉れるのみならず行政官廳と民衆——從來は奪ひ奪はるゝ相手方であつた——の間の正しき關係を紹介す

る、農道政治の翻譯者であります。事變以來内地に於ても農業人口の不足が憂慮せられて居る事實は充分に承知して居る處でありますが新しき東洋の建設の爲に多數の日本農業人口の御割愛を願ひ度いのであります。滿洲國代表の此の希望は他地方にも共通でありましたが内地側に於ても何等異存は無かつたのであります。

七、現下の時局にありては生産力擴充を第一とせねばならない。而して急激なる増産を實現せんとする場合に於ては舊來の配給機構は生産者の利益を保證するに適切ならざる場合が多く強いて之を利用せんとすれば各方面に無理を伴ひ却つて計劃の逆轉を來す惧がある。配給機構の改造、新設、運用方策は生産力擴充方策と不可分關係に立つものであり其の指導は増産計劃と關聯して生産指導の部門に於て擔任されねばなりません。

第三 臺灣の農林産業指導目標

一、臺灣農林産業の指導目標に關しては總督府は豫て府政調査會の決定を経たる既定計劃を有して居ますが本協議會に於て臺灣代表は右既定計劃に基いて極めて率直に説明を行つたのであります。而して大體に於て其の儘參加各地方の完全なる諒解を得たのであります。今右指導目標の主要なるものに付前述議題順に臺灣代表の説明を略記し併せて關係地方の計劃に付若干の解説を加へたいと思ひます。

1. 米。臺灣産業の調和的なる而して眞に健實なる發達を圖る爲其の樞軸を爲す施設として明年度より移出米穀の管理を行ふ計劃で米自體に付ては帝國全體の需要増加に順應する如く生産漸増の計劃を有して居るが事變の關係等で米の供給不足が豫想せらるゝ場合に於ては耕作方法の指導、水利の改善競争作物の一部抑制等の方法に依り就中二期米の増産を計ることに依り使命を果し度いと考へて居る次第です。
- 因に内地は事變に依る米の需要増を三百萬石と推定し此の程度の増産ならば新なる耕地の造成を行ふことなく單に指導に依つて目的を達し得るとの豫想を持つて居ります。朝鮮も時局對策として指導による増産を考へて居ります。臺灣の米穀管理に對しては農林省は最も機宜に適する企なりとして推賞し朝鮮も類似の舉に出で國內米穀需給の調整、取引機構の合理化に貢献する様態進したのであります。朝鮮は主義に於て異存は無し、考究するであらうと述べました。
- 滿洲國は相當増産を計劃して居りますが其の目標を自足自給に置き專賣制を實施し内地に對しては全然輸出せざる計劃であります。
2. 小麦。臺灣は米穀管理に關聯して特に中北部に於て二期作の裏作として四十萬石を目標として奨励し度い計劃であります。滿洲、北支は農民生活の安定、民心把握の要素として増産を計劃して居ります。
3. 繭絲。本項に於ては特に羊毛代用品の問題が論議せられました。臺灣は目下漸く試験時

代を終らんとしつゝある苧麻蠶に付て説明を行つた所其の有望性は各地代表の一驚する所となりました。

4. 茶。茶は臺灣の輸出品中第一位を占むる重要物産で十年後に於ける年産額は再製茶三五四七萬斤に達せしむる豫定であります。特に東亞ブロック以外の第三國に對して輸出の増進を企圖して居るが、綠茶に關しては内地との間に充分相互聯絡を採り度い、尙中南支茶業の指導に付ては臺灣との關聯に重きを置くの要があります。
5. 主要工業原料農林産物
 - イ、棉花。臺灣は米棉中ロングステール級以上に相當するもの及埃及棉、海島棉の如き高級棉の栽培を奨励し臺灣自體の生産目標は繰綿三千五百萬斤であります。背後地たる南支等に於て相當多量の生産を擧げ得る豫想を持つて居ります。
 - 因に北支の將來の生産目標は十億斤で其の中五億斤が我が國の紡績業に供給せらるゝ見込です。之は我が輸入總數量の約三分の一強に當ります。而して品質は中下級のものであります。
 - ロ、苧麻。臺灣の生産目標は千三百萬斤我が國現在輸入數量の約半分で極力増産に努めて居ります。苧麻に關しては内地は山村産業の合理化計畫と相俟つて内地の需要總量を自給する計畫を持つて居ります。此の計畫は前途遠遠の感がありますが、之が豫定通り進捗する場合に於ては臺灣産の苧麻は島内に於ける紡績原料及輸南向製品の原料に向けら

れる譯です。苧麻の需要は國內に於て各種重要軍需品、漁網等の工業原料として激増しつゝあるのみならず、今後麻製品の輸出が非常に期待せられて居りますので之を見透し、上述臺灣の目標は適當と考へられます。勿論現在の時局下に於ては苧麻は著しい缺乏状態でありますので内地も臺灣も極力増産に邁進すべきことは言ふ迄もありません。

中支の奥地は苧麻の大産地でありますが將來中支産の苧麻は帝國內の不足を補ひ其餘分は第三國への輸出に向けらるゝこととなりませう。

ハ、亞麻。「内地、朝鮮、滿洲未れ」大増産計畫を有して居ります。臺灣は時局下の麻缺乏情態に鑑み、將來に備ふる爲大規模的試作を行ひ之に相應する工場設備を設けることになつて居ります。

ニ、黃麻。「包装材料たる麻は吾が國に於て最も缺乏せる資源の一つであります。而して帝國領土中臺灣のみが黃麻の生産に適して居りますので臺灣は急速に生産目標たる八千萬斤(幼麻)を實現し以て本邦に於ける黃麻原料及製品の輸入を防遏する計畫であります。

尙滿洲國は洋麻の増産を行ひ同國內に於ける包装材料の自給自足を企圖して居ります。因に北支中支に於て將來増産を豫想せらるゝ棉花等の包装材料に付ては現在何等考慮せられて居りませんが近き將來南支が臺灣の指導下に之を引受くることゝもなれば同地方の農民に對し絶好の新産業を提供する次第で一舉兩得でありませう。」

ホ、苧麻。「臺灣の生産目標は八百二十萬斤滿洲國以外よりの輸入を防遏することを考慮し

て居ります。」

6 林業。「臺灣はブロック内木材不足の現状に鑑み潤葉樹等の利用増進の方途を講じ移入内地材に置き換ふることを考慮中でありますが一面旺盛なる生長力を利用してバルブ資源の増産に貢献し度い、又漆、油桐、規那、單寧の國內自給を圖る爲目下努力中であります。尙福建省の杉、松は少くとも年三百萬石の供給力を有しブロック内に於ける貴重なる資源であります。之は臺灣、中支及福建省間の貿易を按配することに依り最も有利に開發せらるゝものと認めます。」

7 水産業。「臺灣よりは特に左の二件を提案して詳細なる説明を行ひましたが大體各委員の首肯する所となりました。

イ、魚族保護の爲支那沿海に汽船トロール漁業及機船底曳網漁業の禁止區域を設けること
ロ、南支那海の漁業調整を本府に主管せしむること

8 畜産業。「臺灣は就中豚の増産を行ひ五年後に於て二百五十萬頭に達せしめ一面肉加工業を興し海外輸出に努力するつもりであるが當初の或る期間は内地市場を目標にするつもりなることを述べたるに對し内地側より努めて外貨獲得の爲の輸出に振向けられたいとの意見の開陳がありました。

9 馬。「臺灣代表より馬政計畫(三十年後十二萬頭)に基き説明する所がありました。内地に於ては事變以來馬の重要性に對する認識が深められ「馬は兵器なり」と稱せられ馬政計畫

も擴大強化せられつゝあります。臺灣に於ても馬政計畫が促進せられねばならぬ事情に在りますが本問題に關しては更に他の機會(馬政調査會に關する報告を行ふ際)に詳述し度いと思ひます。

10 事變後に於ける農林業の保護(臺灣提案事項)

今次事變に依り輸入の杜絶又は制限の結果國內に於て供給確保を要する重要物資(例へば臺灣に於ける苧麻、苧麻、棉、黃麻等)に付ては農業者はより有利なりとせらるゝ生産を犠牲にしても之が増産に努めつゝあり、概して良好なる成績を擧げて居るのであります。事變情態が相當長年月に亘るに於ては之等の新産業は耕作技術の改善に依り安定の域に達し得るのであります。案外早く平時經濟に復する場合を假定すれば之等の産業は其の成育中途に於て海外の既成産業の競争に曝されることゝなります。而して上記諸物資の主産地は概ね豊凶の差が激甚で大豐作の年には價格が激落するを常とし之を自由競争に委するに於ては國內産業は根こそぎ壓倒せらるゝ危険があります。一旦斯くの如き事態を見たならば他日必要の場合に増産を懃つても無駄でせう、帝國は今後尙今次事變に倍する困難に出會すことが想像せらるゝのであります。斯くして之等の諸産業は極力之を保護維持するの要があります。事變に際して制定せられた法令中には事變終息後一年を期限とするものが多數あるのであります。或は其の期限を延長するなり特に保護關稅を設けるなり何等かの方法に依つて善處しなければなりません。

11 南支の農林業開發

臺灣の右提案は内地朝鮮共全く同感で此の問題は或は産業權の確立或は農民保護の見地から論議せられ急速に對策を考慮するの要ありと結論せられました。

南支は地理的歴史的に臺灣と密接なる關係を有し之が指導如何は直接に臺灣統治の上に影響を及するのであります。加之其の農業經營上の諸條件は臺灣と酷似して居りますので南支の農業指導は之を臺灣に委ねるを以て良策とします。斯くすることに依つて南支は東亞ブロック内に於て重要資財の供給地として貴重なる貢獻を爲すことを得、又ブロック内諸地方、就中臺灣産業との調和を保持することが出來ます。

臺灣は當初本件を總會に提案する豫定でありましたが本協議會の目的が形式上は「内地農林政策樹立上必要なる資料を得るに在り」と變更されましたので議題として提案することを差控へたのであります。從て臺灣代表は總會に於ては單に南支が臺灣と密接なる關係を有することを略説し各委員會に於て南支問題に言及すべきことを述べたに止めました。各委員會に於ては前記諸事項の協議に際し反復説明を加へたる外農林省農務局長を委員長とする主要工業原料農林産物に關する委員會に於て從來に於ける臺灣と南支との關係を説明し南支農林業の指導は臺灣に一任せられ度き旨を申述べたのであります。之に對して若干の問答が行はれたのでありますが大體の結論として「南支指導の根本方針は勿論東京に於て決定せらるべきである」が農業上の具體的指導は臺灣の技術に俟つべきものであると

言ふ了解に到達しました。

一六

第四 結 言

以上は本協議會に於て爲されたる臺灣の農林指導計劃に關する説明の要領で臺灣の計劃が概ね其の儘本協議會の完全なる了承を得たことは前述の通りであります。新に建設せられんとする東亞ブロック内に於て臺灣の占る地位が如何に重要なるかに就て既に了解を得たものと存じます。最後に重ねて本協議會を通じて認識を明瞭にしたる諸點は左の通りであります。

イ、臺灣は帝國領土内に於ける唯一の熱帯地方として諸種の重要資材に付て獨特の重要使命を有すること。

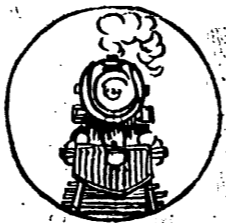
臺灣は其の極めて旺盛なる生産力に依り各種資材に關し有力なる給源たること。

臺灣の努力無くしては東亞ブロック内に於ける重要資材の自給上一大缺陷を生ずること。

ロ、背後地たる南支と併せ考ふるに於ては東亞ブロック内に於ける臺灣の重要性は愈々増大すること。

ハ、臺灣は行くとして可ならざる無き生産能力を具有するが故に帝國內産業調整上數々發動的地位に立ち全體の繁榮の爲に時に所謂持てる者の自制を爲すの當然なる場合あること。

ニ、新しき東洋を形成せんとする各地方に於ては何れも其の指導精神としての日本精神の普及に努力して居るが臺灣も亦「物」に眩惑せられて「魂」を忘れてはならないこと。



地方情報報

州・廳臨時情報部

郡市聯合青年團の査閲

〔臺南州臨時情報部〕 現下の時局ニ本島の特殊使命ニ鑑み州下本島人男女青年三十萬人の奮起活動を促し國民精神總動員の原動力として皇民化の促進を圖り併せて國家奉仕の實行團體たらしむべく男女青年團の擴充強化を期するの緊要なるを認め茲に團則の改正を斷行するに共各郡市に於ては改正團則に基き青年團の擴充強化に努めたる結果本年八月末既に三百七十團二十二萬四千餘名に達し時局に即應すべく夫々之が訓練に努めつゝある狀況なるに鑑み本州に於ては更に青年團の健全なる發達を促し團員資質の向上を期する爲め其の修養及活動の狀

況を點檢査閲し之が指導を爲すを目的とし十一月十二日中に郡市聯合青年團査閲を執行することとした。

第一線の勇士に懐し郷土だより

暴支膺懲の聖戰に奮闘する忠勇無双の將兵の勞苦に對し花蓮港廳では夙に軍事扶助會を組織し銃後國民の各種奉公事業遂行のため諸援護施設を實行し來つたが、今般更に第一線將士の心の糧とも云ふべき銃後、花蓮港便りの第一回を發刊し花蓮港廳出身の第一線に活躍する將士に發送せられた。

この郷土便りは第一回の刊行ではあつたが郷土の近況及銃後各團體の活動狀況其他主なる人事異動等内容を豊

富に取り入れてあるので定めし戦線將士の精神的慰安に大なる役割を果すものも期待されてゐる。

軍人のバラダイス

園南荘成る

屏東市が予て將兵慰安を目的に武徳殿隣地に建設中の軍人慰安所は工事順調に運んで完成した。因に本建物は和洋折衷の明麗最新式の二階建てであつて階下は大食堂に浴場を附屬し階上は數の大廣間ミ玉突、圍碁、將棋等の娯樂室を設備してある。

土曜、日曜、祝祭日は軍人専用にて提供し其の他は俱樂部組織で一般にも公開することになつてゐる。

山の青年連家族に

里芋を贈る

新竹州大湖郡蕃地タイアン社奉公團員は同郡下出征軍



出征軍人遺族に里芋を贈る

人遺家族に里芋を贈り慰問せんことを頭目各家長に計り同意を求め、各戸より持ち寄りし里芋百八十餘斤を搬出し郡下の出征軍人遺家族を一々慰問して里芋を夫々贈呈した。其奇特な行爲は各方面から稱讃されてゐる。

遺家族を護る

赫々たる皇軍の戦功の裏に遺家族の並大低でない奮闘を忘れてはならぬ。これが感謝強調されつゝ、ある折臺中州員林街三笠自働車商會支配人林博厚氏は雇人重信順義君が昨年九月應召されて以來、その遺家族に對し毎月俸給九十圓を支給し大に銃後の赤誠を披瀝する所がある。

小國民の赤誠

彰化市彰化公學校兒童は過般實施されたる國民精神作興週間に於て毎日放課後學級別に拾ひ集めた稻の落穂八

十餘斤を處分して得た五圓五十錢を國防献金した。時宜に適した銃後小國民の熱烈なる愛國の純情の發露とも云ふべきである。

家庭報國

國防婦人會新竹分會では去る國民精神作興週間に當り銃後に在る會員の向ふべき事に就き座談會を催し、一致團結非常時局下にある婦人としての使命を全ふすることに邁進すべく爾今毎月必ず勵行すべき事柄の日々行事表を定め家庭報國の實を擧げることに努力することとし、早速右週間に於て各會員家庭内にある廢物廢品等の整理をなし全額百八十五圓三十八錢を得たるを以て市役所に國防献金方の手續を了した。

勤勞奉仕

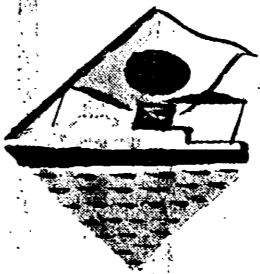
出征軍人家族に對する銃後美談も隨所に見らるゝ處な

るが臺中州豐原郡内埔庄屯子脚肚丁團員は當地出征軍夫許生木、何榮泉の遺家族が時恰も收穫時に當り手不足にて困り居るを察知し、率先之が奉仕作業を派出所に申出で去る十五日團員二組に分かれ收穫に援助した。此の美舉に對し家族は勿論一般住民も感激してゐる。

地主が國策重要資源の

確保に乗り出す

羅東郡下の大地主達は時局に目覺め國策重要資源確保に乗り出し大々的に部落民に呼びかけることになつた。即ち、羅東街陳在濱、藍淮線、三星庄楊有旺は此の程夫々個人慰安會開き懇談をなし夫々千五百坪の土地を阿兼城、員山、尾壠の部落振興會に無償提供し共同耕作園を設置し積極的に芋麻蓖麻の栽培を奨励し又各多收穫作會規定を設け優良小作人を表彰することになつた。



海外情報

臨時情報部

二〇

廣東陷落に對する

支那副領事の所見(馬尼刺)

廣東陷落の報は十月二十一日夜傳へられたが同夜當地駐在の支那副領事は右に對し左の如く語つた。廣東陷落は既に日本軍がバイアス灣上陸以來豫見しおる所にて當地在住華僑は何れも當然のこゝまで驚きおらず即ち廣東が日本軍の手中に歸した事は別に支那が戰爭に敗れたり云ふことを意味せず假令漢口が陥落しても戰爭が終了せるものに非ざる如く(事實漢口の陥落も華僑は豫期した)寧ろ之等は支那が最後の勝利へ一歩づつ、近くこゝを意味するものなり。日本軍は益々奧地へく、兵を送る

必要上聽て經濟的破綻を來して遂に敗戦の憂目を見るに至るべし。

國民黨の没落振りを見つ、然も斯く述べざるべからざる彼等の心境は寧ろ哀れ云ふべきである。

北支國民黨體の蔣介石への

支持電報(重慶)

北支の三十二の國民黨體は蔣介石に敬意を表し彼の統率に斷乎支持を誓ふ旨の電報を發した。電報の内容を要約すれば次の如きである。

我々は日本側戰線の後方に於て政府の抵抗戰繼續方針の實行を援助し、蔣介石總統の統率の下に確信を持つ

た國民が國家の獨立と自由獲得の最後の目的を達成するこゝが出来よう最善の努力を爲すべく覺悟してゐる。右電報の到着に依つて蔣介石の統率と國民政府の對日長期抗戰方針に對する全國的な支持が實現されたと言つてゐるが地方政權化した蔣政權の最後の足掻きに過ぎない。

英大使の談話(重慶)

英大使アーチボルド・ジョン・クラーク・カー氏は去る十七日午後當地支那側高官を歴訪後外交部宿舎に於てUP通信員との特別會見に應じた。通信員の質問に對し大使は湖南省にて蔣介石將軍と二回長時間に亘る會談を遂げたが、自分が日支紛争に調停を申出てるさう古い風説は絶対に根據なきものであると語つた。蔣介石が自分を通じてイギリスに對日制裁適用を要請したといふ最近のロンドン報も事實ではないと述べた。日本側の廣東占領後に於ける極東情勢と香港の孤立とイギリス極東貿易中心地たる地位喪失の可能性を論じて大使は「商業的に香港は支那の他の部分に於けるイギリス貿易と同様な一

時的蹉跌を食つたが余は現在の狀態を過渡的なものと見てゐる」と語つた。又日本側のバイアス灣上陸はイギリス側の默認の下に爲されたといふ全支に瀰漫せる印象についての質問に對し「惡意ある虚構で日本側の南支攻撃に關する正式通告は日本側の攻撃が開始される僅々數時間前に列國に對し爲された」と答へた。日本側の揚子江開放拒絶に關して大使は驚きと遺憾の意を哀しこの重要な水路の開放は支那の門戸開放維持上必要缺くべからざるものでイギリス政府は米佛兩國政府と同様本問題を特に重視してゐると語つた。尙今回の旅行の總括的印象に就て質ねれば大使は支那民衆に感嘆させられ、其の忍耐に非常な感銘を受け、彼等の抗戰繼續意志には何等動搖の色を見受けるこゝが出来なかつたと語つた。

大使は蔣と會談した特殊の話題に就て洩すこゝを拒否し、又制裁適用其の他の日支問題を公然と論ずるこゝを拒絶した。



華僑情報

臨時情報部

三三

陸軍大臣の感謝状

臺灣華僑新民總公會に在りては曩に武漢陥落の際陸軍大臣其他軍部方面に祝電を發したが去る十一月十二日附を以て陸軍大臣より左記の如き感謝狀到達した。

記

今回漢口、武昌、漢陽の攻略に際し陸軍の行動に對し御懸篤なる祝詞並激勵の辭を辱うし感謝に堪へず。茲に深厚の謝意を表するに共に熱誠なる銃後の御期待に副はんことを期す。

昭和十三年十月

陸軍大臣 板垣征四郎

臺北華僑新民總公會御中

臺灣華僑新民總公會

廈門、廣東の皇軍慰問を計畫

今や東亞の新秩序建設に當り本島在住四萬の華僑の總指揮臺としたが此の新段階に當り本島在住四萬の華僑の總指揮臺臺灣華僑新民總公會では愈々東亞維新の共同使命に對し一段ミ協力すべきを痛感し容會長劉順問幹部等相計り全島の華僑に呼び掛け皇軍慰問團を組織し主として故郷たる廈門、廣東を歴訪、現地にて奮闘せられつゝある皇軍將士を懇ろに慰問するに同時に「日本は東洋人としての自覺に目醒めたる支那國民ミ相携へて眞の安定せる東亞の

天地を築かんことを欲するものである」この正義日本の眞意を傳へ更に南洋華僑にも響けミ大に日華提携の爲に大なる効果を收めよう準備に大奮である。

在北福州出身華僑の祈願祭

口繪に説明した通り郭尙清、林學禮、陳寶源、鄭開南、林祥麟、諸氏等發起の下に去る二十三日祖先の祠三山普社に於て嚴肅盛大なる祈願祭を執行引続き次の決議文を發表した。

福建同胞に警告する書

按ずるに支那事變は既に一年有餘に亘り蔣軍は百戰百敗全國の重要地域を喪失し今や輿地へ遁入して一方政權に顛落し餘喘を保ちつゝあるを以て其の再起の能力無きは最早明かなり。

而も鐵軍の手に依りて守備せられ居るに稱する廣東は旬日を出でずして之を失ひ天險を誇る武漢三鎮も亦一撃に堪へずして落ち現に日本軍は兩方より奥漢鐵道を挾撃し破竹の勢を以て進行しつゝあり本線一度貫通



東洋新報の記者石介、よららば
（北臺）てび喜を明黎の新維洋東

三三

の曉に於ては福建は如何にして獨り存立を保ち得んや。

顧るに北支の臨時及中支の維新兩新政府は成立以來等しく日支親善經濟提携を以て國策とし切實に倒蔣反共を行ひ着々新東亞和平の樂土を建設しつゝ其の政治明朗にして成績觀るべきものあり、吾等在臺灣福建華僑は友邦の一視同仁に依る格別なる優遇に預り各々其の業に安じ居るが我が故郷たる福建同胞の安危に對して自から傍觀に忍び得ざるものあり。

況や日本軍の徹底的に膺懲せんむするものは單に容共抗日の蔣政權に限られ一般民衆に對しては愛護至らざる無きに於てをや。

願くば我が政府及全省同胞速かに覺醒一致奮起し毅然として倒蔣反共の旗幟を揚げ全省名人を糾合して新政權を樹立し閩人治閩の理想を實現して友邦との提携の下に共に進行を圖り同胞をして流血焦土抗戰の慘を嘗むる事無からしめ以て救國救民の大道に達せられん事を、前車に鑑むべく再び覆轍を踏まざるを幸す。

の華僑間には深刻なる動搖を呈し怨蔣の聲が高まり蔣政權の持みの綱を切られたもの見られてゐる。

蔣政權否認を叫ぶ佛印華僑

相次ぐ敗戦に國民政府に對する在外華僑の信望は全地に墜ち各地で送金中止等積極的な動きを見せてゐるが佛領印度支那の華僑四十萬に關する情報に依るミサイゴンの漢字紙に遅れ馳せながら廣東、武漢の陥落を報道されるや華僑は國民政府にすつかり失望し抗日醜金もばつたり止り蔣政權否認の叫びまで擧げられるに至つた、狼狽した蔣政權は重慶から電報でサイゴンの華僑の親分として有名な張振帆を粵南捐款委員會委員長に任命し獻金の強要に狂奔してゐるが頓に成績振はず華僑仲間の信用組合である信局は一切支那本國への送金中止を決定し金の動きは全く停止、更に十一月十二日故孫文誕生日を期して擧行される筈であつた救國總會主催の義捐興行遊劇會もおじやんミなつて意氣沮喪した抗日テロ團の壓迫を濟る日貨取引も漸次活潑を呈して來た。

若し尙も觀望寡斷なるに於ては大禍は其の頭に臨むべく之を後悔するも及ばざるべし。

蔣介石への獻金は

海中に投ずる如し

豫て米國華僑より抗戰費獻金七百萬元送金の筈なりし處廣東が餘りに呆氣なく陥落したるを憤慨し右送金を停止するに共蔣介石に對し廣東奪回せられ度し、然らざれば七百萬元の送金は絶對御斷りするは勿論蔣は引責下野すべしとの趣旨の詰問電報を發したる趣なるが右に對し蔣は中央は廣東を放棄したるに非ず廣東の失陥は余漢謀が中央の命を聞かざりしに依るものに付現に廣東省政府は改組の準備中なる一方大軍を派して廣東の奪回を計畫中なれば久しからずして是に成功すべきに付安心ありたし返電した。尙蔣は近く梁寒操を渡米せしめ華僑方面の諒解運動に當らしむるのこゝみであるが武漢、廣東の無残な陥落によつて蔣の長期抗戰も全く支那民衆を慘害に驅り立てるのみにて全世界に散在する約七百八十萬

佛印華僑の動靜

佛印在任華僑は總數大約四十萬にして之が動きは大約二十萬の安南人の動向と共に事變發生以來佛印政廳の主要關心事である、而して其過半は西貢地方(特にシヨウロンには大約十八萬あり)に在りて當方面は僅に二萬を出でない、事變以來佛國側の援支政策を背景として當領華僑の歩調排日氣分は當初頗る大なるものあつたが打ち續く敗戦の事實に伴ひて漸次援蔣熱冷却し本年夏以來中央より宣傳工作員約五十名進入國防獻金募集に努め居たるも一般華僑は武漢陥落を見越して醜金額極めて少かつた。

然れども余漢謀の廣東放棄は同地が當方面華僑の郷里なりし爲絶大なる怨嗟反感の的となり同地陥落後は屢次鳩首會合して廣東奪回を希望し余に對しては問責通電を發した。

昨今我方の〇〇省爆撃と共に當領内に逃亡し來る支那人頗る多く怨蔣の聲年の瀬迫るに共に大きくなつてゐる。

事変日誌



十一月六日

1. 粵漢線南下部隊は石花山の峻を突破、楓樹嶺に進出、羊樓司附近の敵陣地突破の感勢整ふ。
2. 新店鎮占領
蒲圻の西南二十二軒粵漢線西北十軒の要衝なり。
3. 崇陽占領
崇陽は武昌長沙間軍工路の要衝にして、又江南戦線兵站基地なり。
我軍は東門に殺到威嚇と共に城内に突入敵を掃蕩遂に午後一時半完全に占領し、更に西南に潰走の敵を急追先鋒は驪山、劉家を突破、陸水に沿ひ南方に戦果を擴張中なり。
4. 我が空軍の精銳有力部隊は大舉殘敵空軍の重要基地を急襲多大の戦果を収めたり。

二六

【梁山】飛行場内の格納庫中の大型機三、小型機二を爆破、次いで我に挑戦し來たる敵戦闘機約二十数機と壯烈なる空中戦闘を交へ撃墜十五、不時着を餘儀なくせしもの三、最近稀に見る接戦を演じ我が軍も被頭相當大なりしも前記の戦果を収め悠々基地に歸還せり。

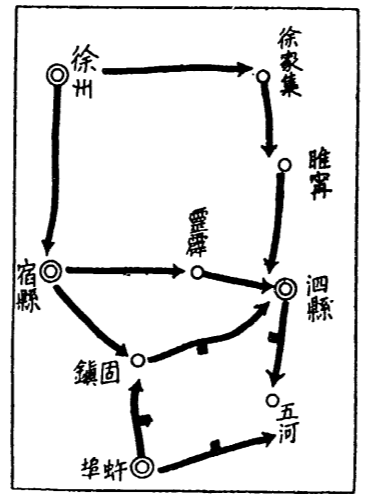
【宜昌】(江西省)【沙洋鎮】(湖北省)一敵集結部隊を攻撃潰亂せしめたり。

【英德】【海豐】【蓮平】(南支)蠢動する敵據點を逐次爆撃し、これに大損害を與へたり。

十一月七日

1. 粵漢線一帯の堅固なる敵陣地を攻撃中の部隊は頑敵を一蹴し夕刻には羊樓洞の東北方に進出猛攻中なり。
2. 粵漢線北方の峻嶒地帯を進撃せる部隊は黃蓋湖畔の同德橋を占領南岸を西進中なり。
3. 崇陽よりの南進部隊は夕刻には王家(西南十二軒)に進出通陽に向ひ猛進中なり。
4. 花縣、長岡占領
粵漢線北上部隊は六日より掃蕩戦を開始し、流溪水を

5. 空軍の活躍
【龍岡】一我が精銳部隊は大舉衡陽飛行場を空襲猛烈なる對地射撃と爆撃を加へ十六機を撃破、敵空軍に壊滅的打撃を與へ全機無事歸還せり。
6. 外務省は將來全支に戦區擴大する豫想に基き適當なる處置を執らんことを要望する旨各國大使に通告せり。



1. 羊樓洞完全占領
粵漢線南下部隊はその東側の要衝羊樓洞を占領湖南省に突入せり。

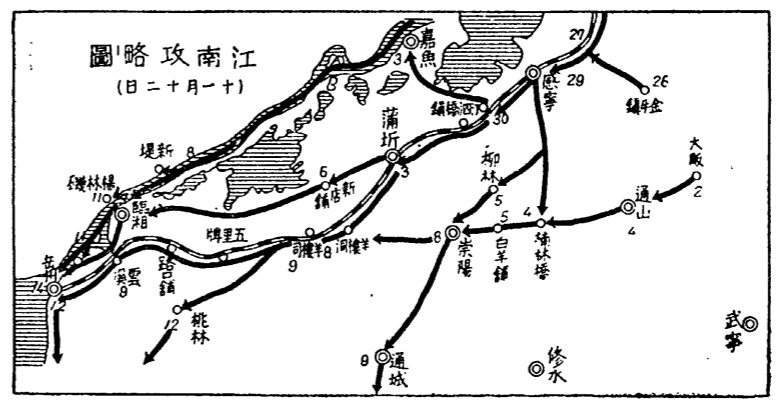
戦展開

山東省南部に蟠踞せる石友三軍は武漢三鎮陥落に居たまま去月來淮河、淮河を渡河西南方に逃亡を企てしかばこれを安徽平野に殲滅すべく北支上陸新銳部隊の主力は七日宿縣方面に移動し大包围陣を形成殲滅の意氣高く包围網を縮少一兵もあまらず殲滅せり。

三七

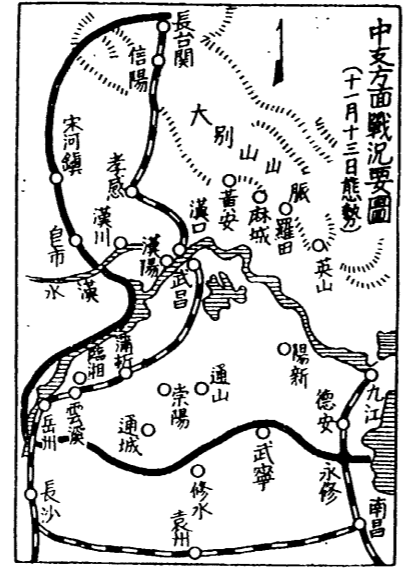
2. 南山屋に進出
崇陽より西進粵漢線沿線を守備する敵の側背を衝く快速挺身部隊は臺上湖(崇陽西方二十軒)を突破南山屋(崇陽西方三十軒)に進出せり。
3. 鄆市占領
崇陽西南三十軒に進出敵部隊の退路を遮断せる我が部隊は更に南方鄆市を奪取、潰走の敵に側面より銃火を集中大混亂に陥らしめたりせり。
4. 安徽平野に包圍一大殲滅

5. 江上遡江部隊は新堤上流二漕の北岸に拠坐せる敵砲艦永洲を拿捕せり。
6. 陸戦隊は新堤市内を掃蕩又敵艦永成を拿捕一路岳陽に猛進中なり。
7. 廣九線新塘附近にて殘敵を殲滅せり。
8. 空軍の活躍
9. 【成都初空襲】— 低空爆撃隊行地上機八機爆撃、敵戦闘機五機と交戦二機撃墜全機無事歸還せり。
10. 【成都西方】— 成都西方飛行場に現れた敵戦闘機五機と交戦その一機を撃墜地上機及大小建築物數棟を爆破全機無事歸還せり。
11. 【衡陽】— 地上機十二機爆撃し其他軍事施設爆撃、全機無事歸還。
12. 【正江】— 湖南省西部— 敵戦闘機十六機と激烈なる空中戦を演じ數機を撃墜、地上機四機を爆破せり、この戦間に我方も二機勇戦



- 二八
- 奮闘の末敵陣に突入自爆せり。
【寶安】、【連平】、【英德】、【翁源】、
(廣東省) 敵陣地を爆撃せり。
- 十一月九日
1. 粵漢線南進部隊岳州に迫る
羊樓司— 五里牌— 路口鋪— 雲漢と一氣に突破先鋒は岳州郊外に達せり。
 2. 通城完全占領
陸水を敵前渡河城内に突入湖北省最後の堅壁を占領せり。こゝに於て敵の本據長沙の防衛陣地の中央突破に成功せり。
 3. 空軍の活躍
【衡陽】— 交通機關に大損害
【肇慶】— 敵集結を銃爆撃し潰滅せしめたり
【南昌】— 東南方の倉庫群を爆破
- 十一月十日
1. 臨湘に敵前上陸

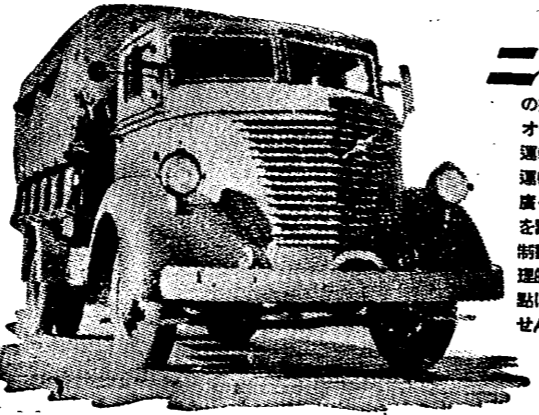
1. 岳州東北方三十軒にして昨日來海空相呼應して總攻撃を開始し早朝附近の兩岸に敵前上陸をなし粵漢線作戰部隊に協力岳州へ進撃せり。
 2. 楊林砲臺奪取
臨湘に上陸と共に敵前上陸し白蠟磯、武嶺子攻略附近を掃蕩中なり。
 3. 空軍の活躍
【瀘州】— 敵軍據點を襲撃
【瀘州】— 敵陣地粉砕
【修水】— 武寧— 長沙方面に移動中の敵を襲撃潰亂
【英德】— 敵軍需品貯藏所及飛行場爆撃
【海豐】— 陸豐— 敵の據點部落を炎上
- 十一月十一日
1. 城陵磯(岳州下流八軒)附近に上陸岳州攻略戰に参加敵を猛攻中なり。
 2. 空軍の活躍



- 十一月十二日
1. 岳州完全占領
長江と洞庭湖の咽喉を扼する歴史上、政治上、經濟上、戰略上の要地なり
十日より激烈なる總攻撃展開せられ右翼陣に於て桃李橋左翼陣に於て松林を奪取十一日江上よりの上陸部隊と相呼應白石磯の堅壁を突破、鳳凰山— 老人鋪— 金蘭山— 城隍— 一角占領、城内に進入殘敵を掃蕩十二日午前七時完全に占領せり。
 2. 桃林(岳州東方三十軒)占領
- 二九
- 【瀘州】— 陸海軍作戰に協力敵陣地粉砕
【金華驛】— 浙贛線— 貨車群、倉庫群、集積物爆撃
【公安】— 湖北省南部— 集積せる軍需品を炎上
【常德】— 桃源— 飛行場倉庫群、自動車群爆撃
【石門】— 敵砲臺四隻を銃爆撃炎上
【海豐】— 陸豐— 【太平】— 清遠— 軍需品の敵の陣地其他軍事施設を爆撃せり

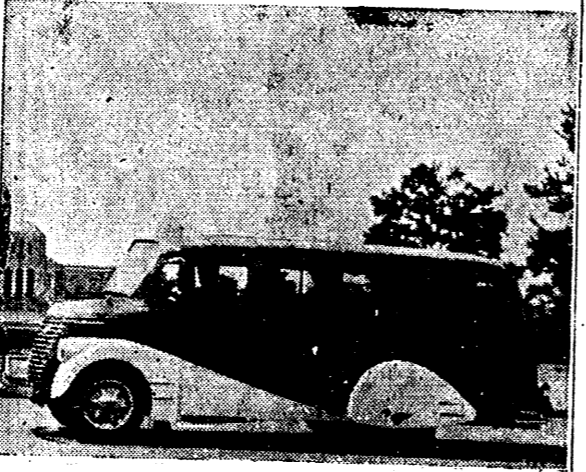
ニッサン

トラック・バス・乗用車



ニッサントラックバスの採用して居ります。キャブオーバー エンジン型の特長は、運転視野を拡大し、種荷面積を広くすると共に荷重配分の均等を圖り、乗り心地快適、操縦容易、街動確實最新式にして且最も合理的なる設計であり、燃費の高い點に於て斷然他の追隨を許しません。

本社	台北市	電話	七四一
北部營業所	台北市	電話	四六七
南部營業所	臺南市	電話	二二一
高雄出張所	高雄市	電話	二二一
臺中出張所	臺中市	電話	二二一
臺中出張所	臺中市	電話	二二一



臺灣日産自動車株式會社

3. 空軍の活躍

【羅蘭】(安陸西北四十軒)―前後二回に亘り軍事施設を爆撃せり。
 【通場】―南方地区の敵大部隊を銃爆撃せり。

十一月十三日

1. 岳州占領部隊は直に潰走の敵を追撃した押に南下中なり。

2. 瀘關猛攻中

十二日來瀘關に密集せる敵を猛攻中なり、瀘關附近の鐵橋は數箇所にて破壊せられ離海線は完全に遮断せられたり。

3. 空軍の活躍

【羅田】―大別山防衛線に敗れて山嶽地帯に逃避蟄居する敵の軍事中樞地を襲ひ徹底的打撃を與へたり。
 【備前】―傳作義軍の根據地を空襲軍事施設を粉碎大損害を與へたり。
 【金華】―貨車群、倉庫群を爆撃せり。
 【衡陽】―貨車百五十輛を爆撃、飛行場の高射砲陣地を攻撃甚大なる損害を與へたり。
 【宜昌】―飛行場内の格納庫及自動車群に銃爆撃
 【桂源】―偵察攻撃に當り敵の據點、兵舎並に自動車群を爆撃

4. 武漢平原明瞭化す

【四會】(廣東省)―兵舎火藥庫を粉碎炎上。
 左記の各地に親日防共の治安維持會誕生
 貴陽、新洲、宋埠、中開、峨亭、三店子、柳子港、白果

十一月十四日

1. 我が空の精銳は江北、江南、南支の野に鵬翼を張り多大の戦果を収めたり。

【羅田】(英山)―敗殘兵及自動車群に殲滅的打撃を與へたり。
 【蘭溪】(蕪湖)―軍事施設、倉庫、集積物の爆撃炎上

【岳州】(衡陽)―列車、貨車群爆撃
 【蘄池口】―砲隊一隻、其他三隻を撃沈又は顛覆
 【常德】―軍需品貯藏所數箇所爆撃炎上
 【修水】(平江)―大平―陸軍作戦に協力前敵を潰亂
 【南雄】―飛行場、倉庫群の大半を爆撃炎上

2. 海軍遡江部隊岳州に突入せり

【南雄】―飛行場、倉庫群の大半を爆撃炎上

3. 廣東婦女治安維持會成立

(以下次號)

部報 昭和十三年九月二十日第三種郵便認可
（每月一日、十一日、廿一日發行） 第四十五號

昭和十三年十一月二十九日印刷
昭和十三年十二月一日發行（月三回發行）

臺灣總督府臨時情報部

印刷人 臺北市榮町二丁目十五番地 加藤 豐吉
印刷所 臺北市京町二丁目四十三番地 小塚本店印刷工場